

● 研究室紹介

近畿大学工学部建築学科 都市計画研究室

保野健治郎
高井 広行
難波 義郎
大森 豊裕

はじめに

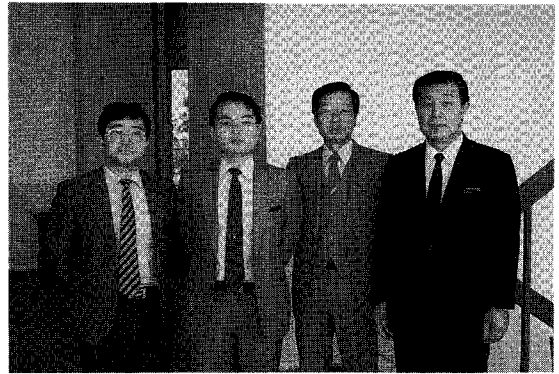
近畿大学工学部は昭和34年4月に開学したもので、工業化学科、機械工学科、経営工学科、建築学科の4学科を設置している。現在の生徒数は約2000名である。工学部開設10周年記念事業の1つとして6号館を、また、15周年記念事業として体育館を建設、20周年記念事業の1つとして図書館を含む8号館を建設した。また、現在、東広島への総合移転が決定し、平成3年に開講の運びになるように計画 중이다。候補地の面積は約42ha、広島大学から約5km北東に位置しており、学部、学科増設の計画もある。

都市計画研究室

近畿大学は学科制の大学であり、教員各自独立した性格の強いところである。しかし、われわれの属している建築学科においては講座制の特徴ももたせ、複数教員制を考慮している。そのなかで、都市計画研究室は防災工学研究室、都市施設計画研究室、都市計画研究室が寄り合いできた研究室である。そのスタッフは保野健治郎(教授)、高井広行(助教授)、難波義郎(助教授)、大森豊裕(講師)の4名で学科内で最もスタッフの多い研究室である。また、ゼミ生は教授の下、助教授以下の教員に配属されている。ゼミ生数は12名(高井)、9名(難波)、11名(大森)の計32名という大所帯である。

研究活動

研究は各人、専門とする分野で行っており、主として、保野、難波は防災工学、高井は交通計画、大森は都市計画の分野で、研究を行っている。研究も各人違ったテーマで行っており、保野、難波は火災を中心とした研究を、高井は住宅地区環境を中心とした研究、大森は土地利用を中心とした研究を行っている。このようになりに学際的な分野の研究が多く、所属する学会も数多く、共通したもので土木学会を初め、都市計画学会、建築学会、



右から保野、大森、難波、高井

その他に個人が所属しているもので火災学会、都市学会、人工知能学会、応用統計学会等の学会に所属している。また、大学院生がいないため、学生の教育は1から10まですべて教員が行わなければならない。ようやく研究の手伝いができるようになる頃卒業するという皮肉な結果が毎年繰り返している。

現在、行っている主なる研究テーマを下記に示す。

1. 都市防災：①都市火災に対するリスクアナリシス、②火災安全性を考慮した土地利用計画、③火災安全性を考慮した施設配置計画
2. 住宅地区環境：①意識指標を用いた交通、防災環境評価手法、②人工知能を導入した総合環境評価手法に関する研究、③住宅地区における交通事故発生に関する研究
3. 救急活動計画：①救急出動計画に関する研究、②救急施設配置計画に関する研究、③救急需要予測に関する研究、④救急活動評価手法に関する研究
4. 土地利用計画：①市街地形成過程に関する研究、②ビルトアップ過程と住民意識に関する研究

おわりに

上述したように、土木工学、建築学、都市工学、防災工学、社会学、公園・緑地学などの広範囲な分野を視点としたかなりユニークな研究を長年行っており、それらの研究成果は土木学会のみならず、他の学際的な分野へも発表している。